



カタクチイワシ (対馬暖流系群)

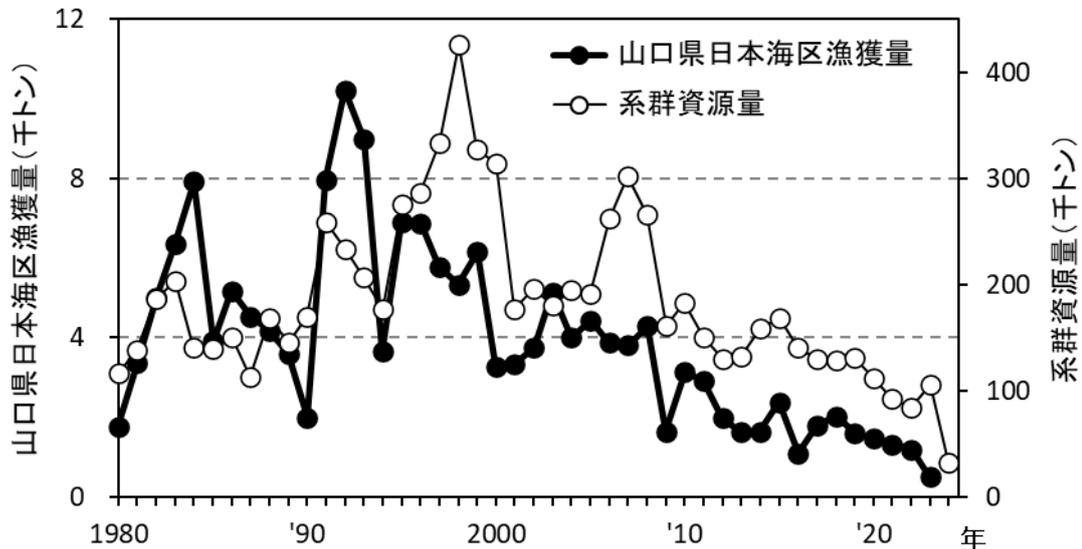


図 山口県日本海カタクチイワシ漁獲量 (漁業・養殖業生産統計年報) 及び対馬暖流系群カタクチイワシ資源量 ((国研) 水産研究・教育機構 資源評価報告書) の推移

【漁業】カタクチイワシは主に棒受網・抄網によりほぼ周年漁獲されるほか、春と秋には船曳網によりシラス・カエリが湾内で漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、1992年の10,215トンをピークとして、その後は変動を伴いながら減少傾向にあり、2023年には503トンとなった。

【資源状態】資源量は1998年には42.6万トンと最高値を示した。その後減少に転じ2001～2005年には19万トン前後で推移した後、2007年には30.2万トンまで増加した。2009年以降は緩やかな減少傾向にあり、2022年は過去最低となる8.4万トンと推定され、2024年には3.3万トンとさらに減少した。

2024年の親魚量 (SB) は最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SB_{msy} : 目標管理基準値) を下回った。また、2024年の漁獲圧 (F) はMSYを実現する漁獲圧 (F_{msy}) を上回った。

2024年漁獲量 (万トン)	MSY (万トン)	2024年親魚量 (万トン)	目標管理基準値 (万トン)	限界管理基準値 (万トン)	禁漁水準 (万トン)
1.1	5.1	1.5	6.8	3.2	0.4